

(2) 滑石製石鍋について

堂地遺跡からは、小さな破片ではあるが滑石製石鍋が出土している。ここでは、この石鍋の出土が意味するものについて若干の検討を加えたい。

滑石製石鍋は、そのほとんどが長崎県西彼杵半島で製作されたものである。製作地としてはホゲット遺跡（大瀬戸町）や下茅場遺跡（西彼杵町）が知られている（正林 1980、荒木 1998）。主な消費地は九州地方であるが、瀬戸内海沿岸、畿内、鎌倉などの遠隔地にも多く分布している。これらの地域には海路を通じて搬入されたと考えられている（木戸 1993・1995）。

限られた地域でしか製作されていないというこの製品の性格上、各地で出土する石鍋はほぼ共通する形態を有している。石鍋の編年案は九州出土例を中心に森田勉氏が、九州及び草戸千軒町遺跡出土品を中心に木戸雅寿氏が提示している（森田 1983、木戸 1993・1995）。これによれば、形態的には円筒形の経筒をルーツとし、次第に逆台形の側面観をもつものに変形していく。また、初期のものを除き、口縁部直下に鍔を巡らすのが大きな特徴であるが、これは時期的に新しくなるに従って退行していく。年代的には10世紀末には九州で出現し、遠隔地への供給が始まったのが12世紀末、全国的な流通を経て16世紀には消滅したと考えられている。

この石鍋は如何にして使用されたのか。一部の文献に「石の鍋」に関する記述はあるものの、これがここで問題にしている滑石製石鍋かは定かではない（下川 1995）。出土する石鍋には煤が付着していることが多く、火にかけて使用した煮炊具であることは間違いない。しかし、明確な使用方法については考古学的には明らかになっていない。

東国では前述したように、鎌倉で特に多く出土している。多くは破片の状態で出土し、遺構に伴うものはほとんどない。鎌倉出土品の年代観に関しては菊川英政氏、馬渕和雄氏の研究がある（菊川 1982、馬渕 1987）。これによると、鎌倉で石鍋が流通したのは13世紀から15世紀中頃であるが、量的なピークは

13世紀後半から14世紀前半頃にあったようである。出土傾向としては、鎌倉市内では至るところから出土しているが、幕府の御所や武家屋敷が所在していた若宮大路周辺に特に集中している。市域を離れたところでも、長勝寺遺跡や光明寺裏遺跡など、特定の寺院跡や館跡からもまとまって出土することがある（大橋他 1978、齊木他 1980）。この状況は、石鍋は上層階級の人々が主に使用した高級品であったことを示している。このことは古文書史料からも裏付けられており、石鍋はかなりの高値をよんだものであったという（森田 1983）。

一方、鎌倉を離れた地域では石鍋の出土数は激減する。埼玉県では現在、今回報告分を含め9遺跡11例を確認している。注目されるのは、これらの出土地はいずれも中世館跡ないしその付近の遺跡ということである。更に、出土数が少ないと石鍋が高価なものであったことを考慮すれば、埼玉県では、石鍋は「武蔵武士」又はそれに準ずる在地有力者のみが持ち得たものであったことが考えられる。換言するならば、滑石製石鍋の出土は、その遺跡にそれ相応の武士団が存在していたことを示唆させるものといえる（高田 2000）。

堂地遺跡は比企郡中山に程近いが、かつてこの地を本領とした有力御家人がいる。他ならぬ比企一族である。比企氏は鎌倉幕府の黎明期においては將軍家との関係も深く、北条一族と肩を並べるほどの権勢を誇ったことは周知の通りである。建仁三年（1205年）、比企一族は比企氏の乱において史上から姿を消してしまうが、今回出土した石鍋は彼らとの関連を十二分に感じさせるものである。

引用・参考文献

- 荒木伸也（1998）『下茅場遺跡』 西彼杵町教育委員会
大橋康二他（1978）『長勝寺遺跡』 かまくら春秋社
菊川英政（1982）「滑石製鍋」『千葉地遺跡』 千葉地遺跡発掘調査団
齊木秀雄他（1980）『光明寺裏遺跡』 北区鎌倉学

園内遺跡発掘調査団・東京都北区教育委員会

下川達彌(1995)「石鍋」 日本中世土器研究会『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社

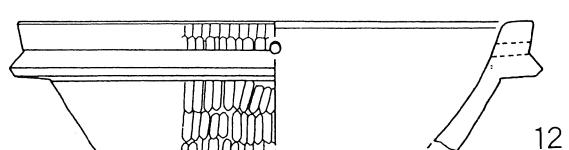
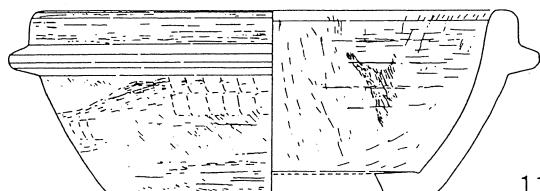
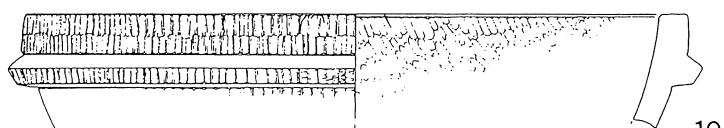
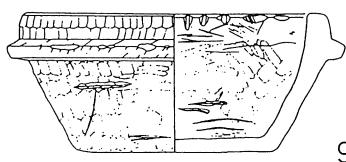
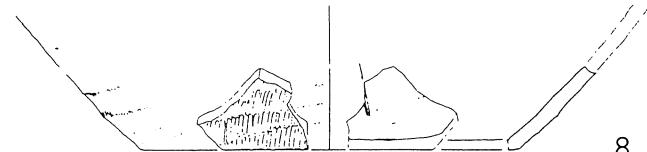
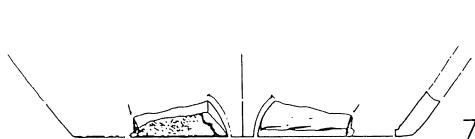
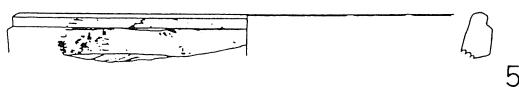
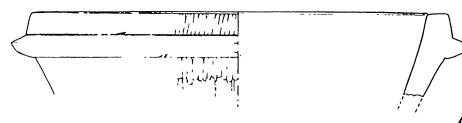
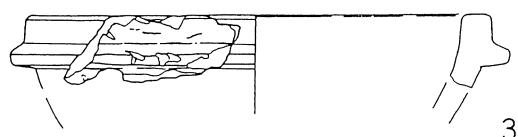
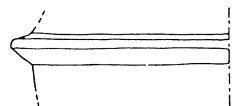
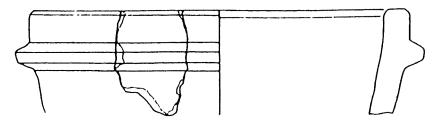
正林護(1980)『大瀬戸町石鍋製作所遺跡』 大瀬戸町教育委員会

高田大輔(2000)「滑石製石鍋について」『宮前本田第130図 石鍋集成図

遺跡(第3次調査)』 鴻巣市教育委員会

馬渕和雄(1987)「中世都市鎌倉の煮炊様態」『青山考古』第5号 青山考古学会

森田勉(1983)「滑石製容器—特に石鍋を中心として」『仏教芸術』第148号 毎日新聞社



0 10 cm

1 畠山館跡(川本町) 2 桶ノ上遺跡(熊谷市) 3 宮前本田遺跡(鴻巣市) 4 安保氏館跡(神川町)

5 行司免遺跡(嵐山町) 6 大久保領家遺跡(浦和市) 7・8 天王遺跡(川越市)

9・10 今小路西遺跡(鎌倉市) 11 甘繩神社遺跡(鎌倉市) 12 千葉地遺跡(鎌倉市)